

マリア・フィアタローネ=シン教授

口頭証言のまとめ： 2019年4月7日（『中国・民衆法廷 裁定』p.484-485）

[背景] シドニー大学の教授です。デービッド・マタス氏の話聞いて、2008年から関わるようになりました。それまでこの問題を認識していなかったのですが、より多くの人々が知る必要があると感じました。黄潔夫はシドニー大学で研修しただけでなく、本校の名誉教授でもありました。このため、黄潔夫のこの問題への関わりを考慮して、名誉教授の肩書は不適切であることをシドニー大学に理解してもらおうと、弁護士や他の倫理学者と協力し始めました。

[活動に抵抗はあったか?] 黄潔夫と一緒に研修を受けた同僚たちや現在の同僚から、かなりの抵抗がありました。黄潔夫は国際移植学会が授与する最高の荣誉である名誉勲章も与えられていました。臓器収奪に関わったことのある者は移植学会の会員にはなれないという明確なガイドラインがあるにも関わらず、現在もこの勲章を撤回されておらず、学会から除名もされていません。中国で起こっていることを把握することを嫌がる一部の移植医が存在してきました。

国際移植学会の会員のガイドラインは明確です。囚人からの非倫理的な臓器摘出だけでなく、中国では赤十字と共に行われている家族への支払いなどの強制的な臓器提供も、中国の会員を国際移植学会から追放する理由のほうですが、何も行われていません。

世界の他の地域の赤十字とは全く異なります。我々の知るところでは、中国移植学会さえ認めていますが、世界の他の場所では非倫理的と見なされていることに関与しています。誰かが死亡するとその家族に強制的に支払うというものです。あまりお金がない人々は拒否することができないので強制です。これらは国連、WHO、国際移植学会のガイドラインに反するものです。

[中国の行動に挑む対話は?] 個人的にはしていません。欧米では中国がやっていることに挑もうと目立った動きはありません。

[British Medical Journal（英国医学雑誌）で発表した中国での倫理に関する論文について]これらの33の論文では囚人からの臓器を使用していないと記述がありました。しかし、33のうち19の論文の臓器移植は2009年以前に行われたものでした。2009年以前は全て処刑された囚人からだと理解していますのでこの記述は虚偽です。

（移植医学界からは論文発表の際も）かなりの抵抗が続きました。黄潔夫は2008年から2014年までの間、（シドニー大学の名誉教授を）2度再任されました。彼が解任されなかった理由としては「対面を保つため」と言えると思います。彼を信じたい、または彼が全てを大丈夫にするように変革すると信じる傾向があったと思いますが、銀行強盗をIMFの総裁に指名するようなものです。彼は長年にわたり多くの人々に嘘をついてきたので、彼が嘘をつくのをやめるとは信じがたいです。彼は処刑された囚人の利用を否定しましたが、後になって認めました。ドナー源も信頼できず、数も合いません。それにもかかわ

らず、欧米社会の盲目的な状態が続いています。

[論文の撤回について]メディアからは注目されました。私の知る限りでは論文を撤回した医学雑誌は一つもありません。論文撤回は編集者の義務です。

[WHO への連絡は?] はい、WHO にも国連にも連絡をとりました。2008 年から DAFOH (臓器の強制摘出に反対する医師団) に従事し、200 万人の署名を集めた請願書も提出しましたが、「中国は正しい方向に進んでいる」と返答するだけで、他の行動には消極的でした。国連は透明性を求めています。中国側は何もしていません。国連・WHO 内の基準に準じているという言葉は完全な虚言です。

[移植手術濫用に関わり、国際移植学会の会員である他の医師の数は?] 何人かはわかりません。黄潔夫は 500 件の肝移植をこなしています。付着しなかったため一日にいくつかの臓器を届けさせた例もあります。彼は処刑された囚人からの臓器の使用に反対しないと言っています。

[なぜ国際移植学会は協力的ではないのか?] 長年、一緒に仕事をしてきたので、制裁でなく従事することで変革できるという信念があります。しかし、国際移植学会の「倫理について」のガイドラインを読むと理にかないません。(中国の) これらの医師は会員になるべきではありません。おそらく、非常に長い間、密接に仕事をしていて、彼らの動機を見抜けなかったことを認めたくないのでしょう。

[オーストラリアの議会内での認識は?] ニューサウスウェールズ州議会では、臓器収奪に関与することを治外法権でも違法とする法案が通過しました。しかし、これは州の問題でなく国家の問題です。中国と密接な貿易関係があります。残念なことに他の分野でも、中国を批判する書籍の発行が遮られており、貿易が倫理の上に立ってしまっています。

基本的に人々は黄潔夫がこの制度を設定し、個人的に行ったことに同意しています。黄潔夫は少し変わることを余儀なくされましたが、すべての医療倫理に反しており、医療に携わるべきでなく、医師を指導するべきでなく、名誉勲章なども剥奪されるべきです。10 年前にこの問題について提起した人々が、今もリードしています。

[国際移植学会が会員を除名したことはあるか?] 中国で臓器移植に関与した医師が国際移植学会から除名されたことはありませんが、他の理由での除名は把握していません。